

文化財観光施設を活用した歴史体験

実証実験 実施要項



2019（R1）年 9 月 3 日

文化財観光施設を活用した歴史体験検討委員会

〔 大洲市商工観光部観光まちづくり課 〕

構 成

1	趣旨・目的	・ ・ ・ ・ ・	3
2	期日・時間	・ ・ ・ ・ ・	3
3	実施体制	・ ・ ・ ・ ・	3
4	主賓（ゲスト）	・ ・ ・ ・ ・	3
5	重要事項	・ ・ ・ ・ ・	4
6	役割分担	・ ・ ・ ・ ・	5
7	スケジュール	・ ・ ・ ・ ・	5
8	大洲城シーン	・ ・ ・ ・ ・	5
9	夜間事項	・ ・ ・ ・ ・	1 1
1 0	臥龍山莊シーン	・ ・ ・ ・ ・	1 2

1 趣旨・目的

- ・実施内容について確認する。
- ・法令（建築基準法、消防法、旅館業法、文化財保護法など）及び安全面について確認する。
- ・メディア等へのPRを促進する。
- ・体験メニューの実施可能性を確認する。
- ・食事メニューの実施可能性を確認する。
- ・施設管理面などのオペレーションを確認する。
- ・静止画、動画などの素材収集を行う。
- ・本格実施に向けた料金設定等、実施計画を作成する。

2 期日・時間

令和元年11月8日（金） 17時から20時まで
〃 11月9日（土） 7時から 9時まで

3 実施体制

（1）主催

大洲市／大洲市観光まちづくり戦略会議／文化財観光施設を活用した歴史体験
検討委員会

（2）実証実験受託業者（予定）

（一社）キタ・マネジメント

（3）オペレーション事業者

バリューマネジメント（株）

（4）協力事業者

大洲歴文会

4 主賓（ゲスト）

伍代夏子さん （肱川あらし観光大使）



※来賓等の招待者（案）

市議会議員、戦略会議委員、検討委員会委員、関係省庁（内閣府・観光庁・経産省など）、
メディア（VM関係）、八幡浜記者クラブ（ローカル）など

5 重要事項

(1) 法令確認

- ・ 建築基準法

建築審査会報告書類をもとに防災、構造上の安全性の確認

- ・ 消防法

搬入備品等についての防災素材等の確認

避難経路及び監視カメラ等の安全設備、人員体制等の確認

- ・ 旅館業法

体験としての整理の確認

清掃等の衛生面の確認

- ・ 食品衛生法

本格実施に向けた打ち合わせ等

- ・ 文化財保護法

史跡及び重要文化財の活用方法、改変等の有無の確認

(2) 報道・メディア対応

実証実験は、報道機関及びメディアへのPRにより、広く周知することが目的であり、すでに関心も高く、メディア対応を優先する。

(3) 体験メニュー

城主体験としての体験メニューについて、実証実験により試行する。

(4) 食事メニュー

食事メニューについて、コンセプトの検討及び試作品を提供する。

(5) 施設管理

展示品の移動、施設管理及び運営体制等について、確認を行う。

(6) 素材収集

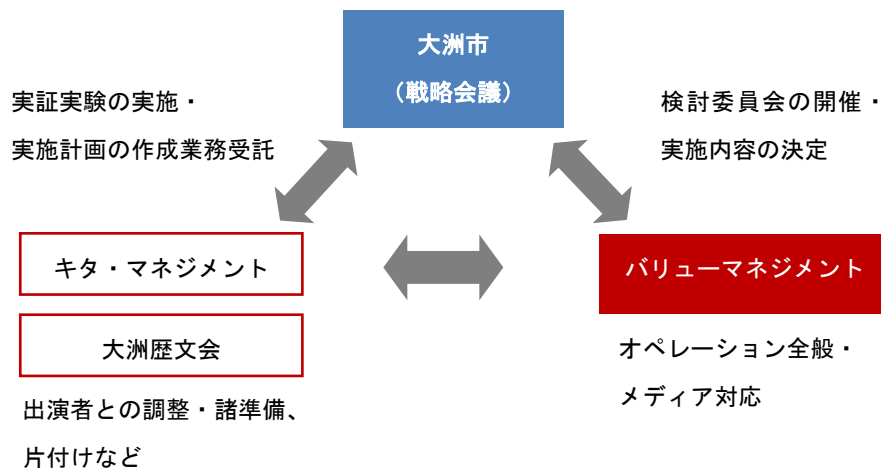
今後の広報宣伝向けの静止画、動画等の素材収集を行う。

(7) 歴史体験としての名称

大洲城での城主体験 「1617年の加藤貞泰の入城」(仮称)

臥龍山荘での主賓体験 「不老庵・朝のもてなし」(仮称)

6 役割分担



7 スケジュール

- 9月3日 第2回検討委員会 「実証実験内容の決定」
- 9月26日 プレスリリース
- 11月8日 実証実験（大洲城）
- 11月9日 実証実験（臥龍山荘）
- 12月下旬 第3回検討委員会 「実施計画の決定」
- 4月以降 本格実施スタート

8 大洲城シーン

（1）タイトル

大洲城での城主体験 「1617年の加藤貞泰の入城」（仮称）

- ・加藤貞泰が在城の頃は、本丸に城主の生活空間があった可能性が高いということを表すタイトル設定

（2）城主体験

「城主をみる」体験と「城主になる」体験を予定する。雨天時や利用客のニーズに合わせて、本格実施時にはどちらも設定する。

実証実験では、「城主をみる」体験を予定する。

(3) 地域の伝統文化等の発信

利用者には、単に城主体験を提供するだけでなく、本事業を通じて、地域の歴史や伝統、文化を堪能してもらうことにも留意する。

特に、夕食シーン以降は、上記目的を色濃くする。

(4) 会場配置

- ・ 市民会館駐車場
メディア、関係者の駐車場として使用
- ・ 市民会館会議室
主賓の伍代さんの控室として使用
- ・ 市民会館調理室
夕食の調理場として使用
- ・ 本丸井戸曲輪南側
馬の待機場所として使用、入城シーンのスタート地点として使用
※馬の装飾必要、馬引き役は甲冑に着替え
- ・ 本丸
入城セレモニー会場
鉄砲隊の待機スペース
メディア、関係者の待機スペース
トイレカー設置



▲トイレカー設置状況

- ・ 天守（16時30分札止め）
日中、来館者に支障のない程度に諸準備を実施
16時30分の札止め後、来館者の状況をみて本格準備 ～17時30分まで

(5) シーン

① 馬で入城

16 時 30 分 スタンバイ（本丸井戸曲輪南側）

- ・加藤貞泰役（未定）、馬を二の丸西曲輪から誘導、スタンバイ
- ・家老役（エスコート役）甲冑に着替えてスタンバイ

■加藤貞泰役（当時 37 歳）

30 歳代の男性により貞泰役を演じていただく予定

■曳き馬 協力：南予ふれあい乗馬クラブ（大洲市長浜町）



（レニー号 牝馬 20 歳）



（装飾イメージ）

16 時 50 分 ゲスト本丸入り

- ・ゲストの伍代さん、本丸入り

17 時 00 分 入城シーン

- ・加藤貞泰、家老と馬引きと 3 人で本丸に入城（30m 程度の乗馬）
- ・本丸では、大洲藩鉄砲隊、幟隊が甲冑姿で出迎え
- ・セレモニー（案）
 - (1) 大洲藩鉄砲隊 歓迎の演武
 - (2) 一日城主証の手渡し＋市長から歓迎のあいさつ
 - (3) ゲスト（伍代さん）からあいさつ

■入城シーンセレモニー シナリオ案

(馬の様子により、法螺貝、太鼓などで合図)

隊長 「貞泰公が城入りなさるぞー！」

(旗振隊 旗を振って出迎え)

貞泰公 「米子から大洲の地へ参ったぞ」

「大洲藩鉄砲隊、祝砲を放て！」

鉄砲隊 「オー！！」

(鉄砲隊演武準備)

— 鉄砲隊 演武 — (馬は音で驚くため、井戸曲輪に移動)

貞泰公 「本日は、入城ばかりで油断ならぬ。我も天守に入り、城を固める。」

「皆の者、陣構えをよろしく頼む。」

(ゲストの伍代夏子さんに対し)

「ところでおぬし、これからは、(影武者として) 我になり替わるのじゃ。任せたぞ！」

ゲスト 「はっ！かしこまりした」

(市長に対し)

貞泰公 「市長よ、あの者に城主証を授けよ。」

(市長からゲストに)

市長 「城主証。伍代夏子殿。貴殿を、大洲城の一日城主に任命する。

令和元年 11 月 8 日 大洲市長 二宮隆久。」

- ・市長歓迎あいさつ
- ・ゲストの伍代夏子さんからあいさつ

(セレモニー終了)

② 家老からの説明シーン

17 時 30 分 高欄櫓から入城

- ・高欄櫓から城下を見下ろし、古地図をもとに城下町説明
- ・天守 4 階まで城内を案内、4 階では歴史や観光について説明

③ 伝統芸能シーン

18 時 00 分 天守 1 階 又は 天気良ければ屋外 (本丸)

- ・市内の伝統芸能 (県指定文化財など) を披露する 30 分程度
- ・屋内もしくは、天気が良ければ屋外での披露
- ・ゲスト (伍代さん) 鑑賞

[候補]

- ・ 雅楽 八幡神社雅楽（大洲雅楽同好会）
- ・ 文楽 県指定無形民俗文化財「大谷文楽（おおたにぶんらく）」
- ・ 神楽 県指定無形民俗文化財「河辺鎮縄神楽（かわべしめかぐら）」
県指定無形民俗文化財「藤縄神楽（ふじなわかぐら）」



▲八幡神社雅楽



▲大谷文楽



▲河辺鎮縄神楽（山鳥坂夜神楽）



▲藤縄神楽

※大洲の能楽

明治年間「松謡倶楽部」という能楽の会あり。

幕末から明治の半ばにかけて、大洲の能楽は、宇和島や松山に招かれて出演したほど盛んであり、有能な人がそろっていた。（その後凋落した）

大洲の能楽は江戸時代早期から興り、藩主の教養として行われていた。

二代藩主、加藤泰興は江戸の能楽家観世暮久を大洲に招いて能を学んでいた。

三代藩主、加藤泰恒も江戸の観世藤十郎を召し抱え、彼を相手に熱心に稽古した。

江戸においては、浅草の邸内に能舞台をつくった。

歴代藩主は、能楽を必修の業として研修に努め、藩士もまたこれに倣った。

大洲には特設の能舞台がなかったので、演能はおもに龍護山と寿永寺で行われていた。

※実証実験で「能」を演出する場合、雨天対策等に課題がある。

また、本格実施の場合、金額、雨天対策、準備等に課題がある。

④ 夕食シーン

19 時 00 分 天守 1 階又は高欄櫓 1 階で夕食

- ・ 18 時 30 分頃からセッティング
- ・ 台所櫓横に料理保温スペースを確保
- ・ 19 時 00 分から伍代さんとの食事会
- ・ 石井料理長による説明
- ・ メディアによる撮影（物撮りは別途設定）
- ・ ゲスト等は、夕食シーンまでで終了

■メニューコンセプト案

江戸時代の大洲藩の名産品※や、現在の名産品を選定し、現代風アレンジを加えて提供するものとする。

本事業を通して、この地域の食文化の豊かさをアピールし、「キャッスルスティ選定品（仮称）」として厳選素材をブランディングしていくことも目的の一つとする。

※元文五年（1740 年）頃に書写されたとされる大洲藩の地誌「大洲秘録」には、各地の土産・名物が記されている。例えば、長浜の土産には、タイ、カレイ、ハマチ、タコ、青海苔などが記され、若宮の土産にはゴボウ、ナス、スイカなどが記されている。なお、当時の料理方法の記録はなく、調味料が塩、酢など限定的であることから、上記コンセプトとするものである。

⑤ 月見シーン

20 時 00 分 高欄櫓 2 階でお月見

- ・メディア用として空間のみセット
- ・内子・大洲の銘酒（日本酒・ワインなど）を用意

⑥ 城泊シーン

20 時 30 分 天守 1 階

- ・メディア用として空間のみセット
- ・畳敷きにマットレス等の仕様を予定
- ・動画、静止画等の素材として撮影
- ・照明テスト

■ タイムスケジュール

時刻	内 容	備 考
16 時 30 分	スタンバイ	
17 時 00 分	入城シーン・セレモニー	
17 時 30 分	家老からの説明シーン	
18 時 00 分	伝統芸能シーン	
19 時 00 分	夕食シーン	（ゲスト等、終了予定）
20 時 00 分	月見シーン	（撮影のみ）
20 時 30 分	城泊シーン	
22 時 00 分	夜間確認	（担当者など宿泊）

9 夜間の確認事項

（１）消灯時のテスト

- ・照明配置
- ・ライトアップ消灯 （22 時消灯予定）

（２）安全対策

- ・ビデオカメラの確認作業
- ・トイレ等への動線確認
- ・バトラー 2 人の対応

(3) 就寝時の確認

- ・実際に担当者等が寝泊りし、確認作業を行う。

10 臥龍山荘シーン

臥龍山荘での主賓体験 「不老庵・朝のもてなし」

- ・不老庵において、河内寅次郎が、朝、主賓をもてなすとすれば、どのようなものとなるかを想定する。
- ・史実にはないものであるので、専門家による監修によりシナリオ等を作成する。
- ・専門家として木村宗慎氏に監修を依頼し、コンセプト、シナリオ、朝のメニューなどについて作成するものとする。

木村宗慎氏

茶人。1976年愛媛県生まれ。神戸大学法学部卒業。

少年期より裏千家茶道を学び、1997年に芳心会を設立。

京都、東京で稽古場を主宰しつつ、雑誌の記事やテレビ番組、展覧会等の監修を手がける。

大洲市のガイドブック「水郷の数寄屋 臥龍山荘」にも寄稿いただいている。

「茶の湯いらずの茶室」

臥龍山荘はただそこに佇むだけで、茶の湯の、数寄屋の原点とは何だったのかを感じさせる場だからです。

[水郷の数寄屋 臥龍山荘より抜粋]

